

知っておきたい社会的ハイリスク妊婦への支援 —シームレスな母子支援のあり方—

妊娠・出産は、女性にとって人生の一大イベントです。しかし経済的困窮、精神疾患、若年妊娠、DVや虐待の被害や加害、薬物依存症など、社会的な問題を抱える妊婦にとっては、様々な困難を伴います。複数の要因が絡み合い、適切な医療や福祉サービスにアクセスしにくい社会的ハイリスク妊婦も一定数存在します。一方で、少子化で出生数が減少しているなかにあっても、このような社会的ハイリスク妊婦の割合は臨床の現場でむしろ増加している実感があり、どのように対応すべきか、躊躇する場面も少なくありません。

そもそも母体の妊娠、出産と子育ては一連のものであり、その観点からは社会的ハイリスク妊婦に対しても、医療、行政、福祉、関連NPO団体などが連携し、切れ目のない、シームレスな支援を提供することが重要です。

そこで本特集では、社会的ハイリスク妊婦に対する妊娠中からのシームレスな対応に役立つように、産婦人科医や医療スタッフが知っておくべき知識を、本分野のエキスパートの先生方にご解説していただくこととしました。

包括的な支援体制を構築するには多職種連携が不可欠です。しかし、職種により現状や課題に関する見方は異なるものと思われます。そこで、本特集では様々な職種の方々からの自由闊達なご意見もお願いしています。また精神疾患を伴う妊産婦への支援については、特集「周産期メンタルヘルスを深掘り！」(2024年91巻6号)でも取り上げましたが、対応が難しい発達障害を伴う妊産婦に対する支援については本号で解説をお願いしています。普段あまり情報に接することの少ない新生児殺・嬰兒殺、内密出産、里親制度・特別養子縁組制度など特殊な状況についても情報共有したいと思います。

本特集により、社会的ハイリスク妊婦に対する支援の現状と課題、より効果的な支援のあり方についての知識が深まり、産婦人科医を含む医療スタッフの対応力が向上し、社会的ハイリスク妊婦の早期発見、症例ごとのスムーズかつ必要な支援体制の構築、地域ごとの支援ネットワークの強化などにつながることを期待しております。

(東海大学医学部専門診療学系産婦人科 石本人士)